

INFLUENZA QUESTION & ANSWER

ノイラミニダーゼ阻害薬とキャップ依存性 エンドヌクレアーゼ阻害薬の作用機序の違いと 注意したほうが良い点について教えてください。

佐藤晶論

福島県立医科大学医学部小児科学講座講師

現在、日本ではインフルエンザ患者に対しては、ノイラミダーゼ(NA)阻害薬とキャップ依存性エンドヌクレアーゼ(CEN)阻害薬が投与可能です。前者には、経口薬であるオセルタミビル、吸入薬であるザナミビルとラニナミビル、そして唯一の点滴静注薬であるペラミビルがあります。NA阻害薬は、ウイルス生活環の最終段階である仔ウイルスが感染細胞から放出される過程(図1)を阻害する薬剤ですので、一旦ウイルスが細胞に感染すると仔ウイルスが複製されるためウイルス量は増加しま

すが、それ以降のウイルス量の増加は抑制されます。

一方、キャップ依存性エンドヌクレアーゼ(CEN)阻害薬であるパロキサビル マルボキシルは、ウイルスRNAからmRNAへの転写を阻害(図1)、最終的にはウイルス蛋白合成を阻害する薬剤です。そのため、NA阻害薬と比較し投与早期にウイルス量を有意に減少させることができます¹⁾。本剤投与例とオセルタミビル投与例との間で臨床経過を比較した場合、小児では早期に臨床症状の改善が得られますが²⁾、成人では臨床症状が軽

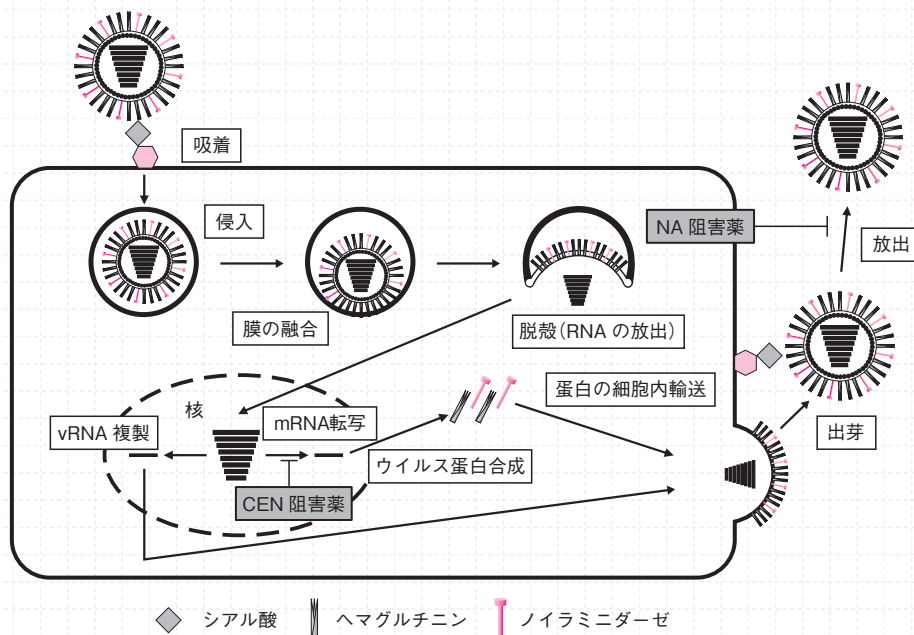


図1 インフルエンザウイルスの生活環と抗インフルエンザ薬の阻害機序
CEN：キャップ依存性エンドヌクレアーゼ、NA：ノイラミダーゼ。

Key Words ▶ インフルエンザ パロキサビル マルボキシル ノイラミダーゼ阻害薬 キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害薬